

KURASU HACHINOHE

八戸で暮らそう。



移住の
すすめ

KURASU HACHINOHE

ちようどいい 田舎が ここにある

サーフィンや釣りを
楽しんであら出勤し、
オフィス近くの
カフェでランチ。

仕事の後は
温泉でリラックスし、
週末は家族で
地元チームの応援やキャンプ。

八戸市は
そんな生活を実現できる
都市と自然の調和が
取れた街です。

海、山、川に恵まれ、
仕事や買物も便利。
「ちようどいい田舎」で
あなたにとって
「ちようどいい暮らし」を
見つけてみませんか。

INDEX

- 03 八戸のエリアのこと
- 05 気候、食文化、祭りのこと
- 07 子育て、本とアート、海と山のこと
- 09 移住のこと 01
- 11 移住のこと 02
- 13 移住のこと 03
- 15 移住支援制度のこと

八戸のエリアのしくみ

1 石堂・下長・市川

工業団地や、陸上・海上自衛隊を擁するエリア。市街地の幹線道路沿いにはファストフード店があるほか、中心街や、おいらせ町の「イオンモール下田」へのアクセスも良好。

2 尻内・長苗代・櫛引

東北新幹線が発着するJR八戸駅があり、他都市への交通至便。1年中スケートが楽しめるスポーツ施設「FLAT HACHINOHE」や、トランポリン棟を備えた複合商業施設「エルロン・ウエスト・ビレッジ」、何でもそろう市場「八食センター」もこのエリア。

3 江陽・沼館・城下

「ラピア」「ピアドゥ」をはじめとする大型のショッピング施設が集まり、買い物には事欠かない。幹線道路沿いには回転寿司やハンバーグなどの飲食チェーンも立ち並ぶ。

4 根城・売市

南北朝時代に築城、2001年に復元された国史跡「根城」や、「博物館」、「八戸南部氏庭園」など歴史的なスポットがあるエリア。その一方で、中心街から近い住宅地として人気。

5 中心街

「市役所」や「公会堂」、「美術館」、「八戸ブックセンター」、「八戸ポータルミュージアムはっち」などの文化観光施設が集積する。デパートやビジネスホテル、繁華街があり、観光拠点にも◎。

6 小中野・青葉・類家

スーパーやホームセンター、飲食店、銭湯などが複数あり、中心街にもアクセスしやすい。かつて花街として栄えた小中野には、国の登録有形文化財「新むつ旅館」が残る。

7 湊・湊高台・白銀

沿岸部には、新鮮な魚介類がそろった「市営魚菜小売市場」がある。また、全国的に有名な「館鼻岸壁朝市」も。一方、住宅地の湊高台には、飲食店、医療機関などが点在している。

8 種差エリア

ウミネコが集う国の天然記念物・蕨島や、国立公園の一部である種差海岸などの景勝地があるほか、多様な海洋生物を展示する「水産科学館マリエント」などの施設がある。

9 ニュータウン・田面木

八戸ICにアクセスしやすく、車で長距離移動に便利な新興住宅地。大型書店「TSUTAYA八戸ニュータウン店」をはじめ、スーパー、100円ショップ、ドラッグストアなども集まる。

10 新井田・田向

再開発が進む田向には、「市民病院」や「総合保健センター」など、地域医療に関する重要な機関のほか、スーパーや飲食店が集まる。一方で新井田には、のどかな田園風景も残る。

11 是川・南郷

山側に位置する一帯。市内の遺跡で発掘された出土品が集まる「是川縄文館」は、国宝・合掌土偶を展示。豊かな自然が残る南郷には、スポーツ施設や道の駅、「ジャズの館」などがある。



area.11 是川・南郷
山の楽校

area.5 中心街
はっち

area.8 種差エリア
みちのく潮風トレイル

本州の最北端、青森県の東部に位置する八戸市は、人口約22万人の都市。太平洋に面し、農水畜産業や商工業、流通・サービス業などの産業が集積しています。

新幹線では、八戸駅から仙台駅まで最速で1時間9分、東京駅まで2時間41分。車で約40分の三沢空港からは、東京・羽田空港、大阪・伊丹空港、札幌・丘珠空港への国内便が発着しています。八戸港からは、八戸

と苫小牧を結ぶシルバーフェリーが運行。また、自動車での所要時間は、東北縦貫道を利用して仙台まで約3時間30分、東京へは約8時間です。

海や山に囲まれています。市内の各エリア間は移動しやすく、医療や買い物などの日常生活圏がほどよく形成されています。半分都会で半分田舎のちょうどいいライフスタイルを、八戸で叶えてみませんか。

気候のいふ



もっと知って！八戸の冬

青森県内でも積雪量は比較的小さい地域。



八戸市は太平洋側気候に属していますが、夏は「やませ」と呼ばれる、海から吹く冷たく湿った風により冷涼な気候になることもあります。2024年の夏の最高気温は34.7℃で、7、8月の平均最高気温は28℃台でした。30℃を超える真夏日は、東京は83日ありましたが、八戸市は23日でした。

「青森県＝豪雪地帯」というイメージが強いですが、八戸市は積雪量が少ない地域。最深積雪の過去30年の平均値は、青森市が101㌢、八戸市が27㌢で、約4倍の差があります。八戸市で最深積雪が10㌢を超えるのは、年平均約20日で、雪かきの回数は日本海側より圧倒的に少ないです。24年の冬の平均最低気温は2、12月の-2.0℃でした。

冬用タイヤは必須！

冬はスリップ事故に注意！車にはスタッドレスタイヤを必ず装着しましょう。運転はスピードを出し過ぎず、急ブレーキ、急ハンドルを控えるのがコツです。

小学生はスケート必修！？

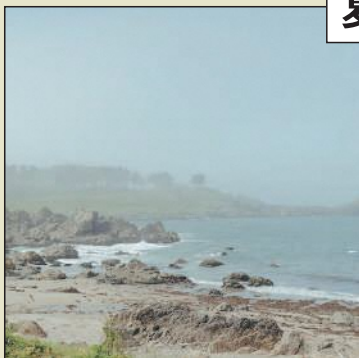
雪が少なく気温が低い八戸市は、昔からスケートが盛ん。氷都（ひょうと）の異名もあるほどで、多くの小学校でスケート教室が行われます。

水道管凍結に注意

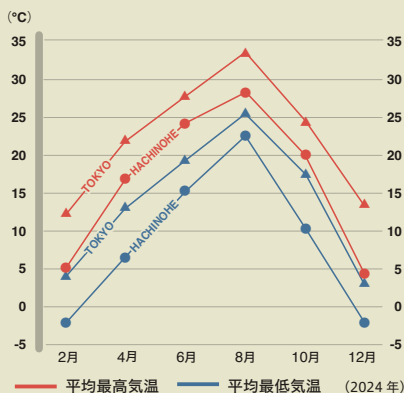
住居によっては寒さで水道管が凍結し、破裂してしまうこともあります。天気予報の水道管凍結注意報をチェックし、水抜きの手順も確認しましょう。

夏

@YAMASE



八戸と東京の気温



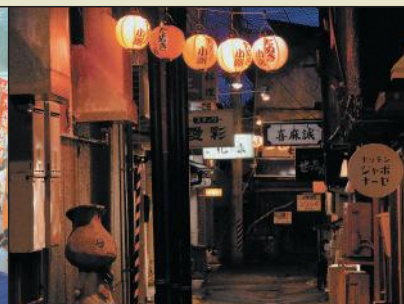
@ASAICHI



八戸の食を楽しむ 市場や朝市、横丁文化。

日本有数の水揚げ量を誇る八戸港を擁する八戸市では、独自の食文化が発展してきました。水揚げ量の大多数を占めるのは、イカ、サバ、イワシ。中でも一定の基準を満たしたサバは「八戸前沖さば」としてブランド認定し、県内外にPRしています。

@YOKOCHO



八戸の食文化を楽しむなら、鮮魚や肉、青果までそろう市場「八食センター」や、八戸市の食文化が凝縮している日曜朝の名物「館鼻岸壁朝市」へ。一方、中心街には戦後から発展した横丁文化があり、8つの横丁が張り巡らされています。地酒（ワイン、日本酒、ビール）や郷土料理を味わえる居酒屋から、老舗のバー、各国料理店まで、バラエティ豊かなお店が集まります。

@SANSHATAISAI



市民により継承される 夏の祭り、冬の祭り。

八戸の夏祭りといえば、300年をこえる歴史を持つ「八戸三社大祭」。7月31日から8月4日までの5日間、中心街をメインに開催されます。最大の見どころは、神話や歌舞伎などを題材にした山車の運行。「ヤーレーレ」のお囃子とともに、「引き子」

@ENBURI



と呼ばれる子どもたちが山車を引きます。冬のお祭りは「八戸えんぶり」。2月17日から20日まで開催される、豊作祈願の伝統芸能です。その技術は800年以上、口伝で継承されてきました。八戸三社大祭の山車を制作しているのも、八戸えんぶりで舞うのも、他に本業を持った市民たち。八戸のお祭りは、市民によって大切に継承されています。

食文化のいふ



祭りのいふ



子どもをのびのびと
育てられる環境。



八戸市の子育て支援は、出産前から始まります。出産・育児への不安を解消するため、八戸市総合保健センターでは妊産婦を対象にした交流会「はちまむサロン」を開催。2019年からは、国民年金第1号被保険者を対象に、出産前後

の国民年金保険料が免除される制度が開始されたほか、出産した月の翌月末まで外来医療費が無料になる制度があります。

市内には広々とした公園や広場、屋内施設があり、お子さんをのびのびと育てられる環境が整っています。

ブックスタート& マイブッククーポン

「ブックスタート」は、赤ちゃんと保護者に絵本を開く楽しい体験と一緒に絵本をプレゼントする取り組み。また「マイブッククーポン」として、小学生に市内書店で使用可能な2,000円分のクーポンを配布している。

DATA [ブックスタート事業] ● 0178-22-0266 (図書館) [マイブック推進事業] ● 0178-43-9519 (教育委員会教育指導課)

こどもはっち (転動ママひろば)

三日町の「八戸ポータルミュージアム はっち」内にある、育児支援機能も備えた子どもの遊び場。市外出身や転勤族のママの子育てサークルもある。

DATA ● 八戸市三日町11-1はっち4F ● 0178-22-5822 ● 9:30～16:30 ● 毎週火曜・年末年始休 ● 入場料無料

八戸公園 (こどもの国)

遊園地や動物園、植物園などを備えた公園。入場無料。遊園地は冬季閉鎖するが、テント屋根の「三八五こども館」は天候や季節に左右されず、ジャイアントスパイダーネットなどの遊具で遊ぶ。

DATA ● 八戸市大字十日市字天摩33-2 ● 0178-96-3409 ● 9:00～16:45 ● 月曜休 (祝日の場合は営業、翌日休) ※施設により異なる

八戸版ネウバラ

フィンランド語で「助言の場」を意味する「ネウバラ」は、妊娠中から出産、子育てまでを継続的にサポートする制度。

DATA 八戸市こども家庭センター (母子保健機能) ● 八戸市田向3-6-1八戸市総合保健センター すぐ親子健康課 相談室 ● 0178-38-0711 ● 8:15～17:00 ● 土日祝・年末年始休

自分で本を選び、
所有する楽しみを。



@BOOK CENTER

“本のまち八戸”を推進し、2016年に全国初の市営書店「八戸ブックセンター」が誕生。民間書店では取り扱いにくい専門書も蔵書します。また、子どもたちにも本に親しんでもらうため、「ブックスタート」や「マイブッククーポン」の取り組みも。

文化芸術の発展を支える
アート拠点が誕生。

八戸市では文化芸術を活かしたまちづくりのため、アートプロジェクトにも力を入れています。2021年11月に「八戸市美術館」が再開館し、展覧会をはじめ、イベントやワークショップなどを行い、アート活動の拠点となっています。(撮影：阿野太一)



@HACHINOHE ART MUSEUM

フルーツや穀物など
農作物も見逃せない。

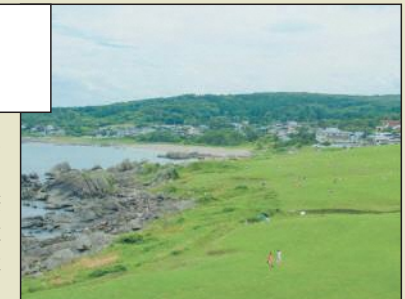


@NARAWAZU LAKE

内陸の南郷地区は農業が盛ん。寒暖差が大きい気候により、甘くて美味しいサクランボやイチゴ、ブルーベリーなどの収穫体験ができます。穀作地帯でもあり、「南郷そば」は名産品。廃校を活用した「山の楽校」や、人工湖「青葉湖」などの見どころも。

海に面しているからこそその
景勝地がたくさん。

太平洋に面した八戸市には、海沿いに景勝地が点在します。ウミネコの繁殖地として国の天然記念物に指定されている「蕪島」や、青々とした広大な天然芝生「種差天然芝生地」、樹齢100年の松が立ち並ぶ「淀の松原」など、名所が多数。



@TANESASHI KAIGAN



44歳の一念発起 農家に転身

八戸市出身。20歳で転出し、神奈川県や東京都内で介護の仕事に従事。農業を始めるため、2016年にUターンし、五戸町で自然栽培に取り組む農家の下で1年間研修。17年、八戸市南郷地区で就農した。

満足度／人の温かさ◎／自然が豊か◎／夏に過ごしやすい気候○



野菜本来の味届けたい

昔から自然や農業に興味があったという鈴木正樹さん。出身は八戸市中心街に近い地区です。成人後は長く首都圏で介護の仕事に就いていましたが、同市南郷地区でUターン就農しました。手がけるのは、無農薬、無化学肥料による自然農法。「特にイモ類は味の濃さが分かりやすい。栽培の難易度が高く、まだまだ未熟ですが、野菜本来のおいしさを届けたいです」とやりがいを語ります。

農家に転身した理由はいくつかあります。多忙な仕事でないがしろになっていた食を見つめ直したいと感じていたこと、リンゴの自然栽培に成功した弘前市の農家木村秋則さんの著書に出会って感銘を受けたこと。そして、宮城県に住んでいた姉を東日本大震災で亡くし、ふるさとの東北地方に対する思いが強くなったこと。44歳で一念発起しました。

五戸町での研修を経て、自然農法に取り組む農家が比較的多い同市南郷地区で農地を借り、本格的に就農しました。

地域で広がる活躍の場

作付けは主に、ニンニク、ナガイモ、ジャガイモ、ニンジンなどの根菜が中心。最近では、希少性が高い有機の夏ニンジンの栽培拡大に向けて若手の仲間とプロジェクトを立ち上げたり、自然農法を実践する地元農家団体「アグリメイト南郷」の会長に就任したりと、地元で活躍の場を広げています。介護職の経験から、障害者に農業分野で活躍してもらう「農福連携」にも積極的で、福祉事業所の利用者を働き手として受け入れています。

「今後も自然農法にこだわりたい。成功体験を積み重ね、農業を志す後進にノウハウを伝えられる存在になりたいですね」と鈴木さん。栽培規模を広げていくことや、地域で増え続ける耕作放棄地の活用にも意欲的です。

趣味は東京時代に学んだ三線。個人的に指導もしています。なじみの喫茶店や、中心街で開かれる「はちのへほコテン」で演奏することも。野菜作りも音楽も、自分らしさを大切に生活しています。

八戸市の移住制度

働く

○ほんのり温ったか八戸移住計画支援事業

北東北3県(青森県・岩手県・秋田県)以外の地域からのUターン就職希望者に対して、移住のための引っ越し費用、住宅費(家賃)、学用品等の購入費を支援しています。

夫の夢も、妻の希望も実現

〈昭大さん〉青森市出身。地元の調理師専門学校を経て、東京都内のレストランなどに13年勤務。〈詩織さん〉八戸市出身。大学入学を機に上京し、体操のインストラクターや会社員として働く。2018年入籍、21年に長女が誕生。22年移住、23年に「Pizza 217」創業。

満足度／降雪が少ない◎／海・川・山が身近◎／活気がある○



キッチンカーで本格ピッツァ

八戸市内外のイベントや商業施設で、まき窯で焼いた本格「ナポリピッツァ」を販売している倉内昭大さん、詩織さん夫婦。都内のイタリアンレストランで修業していた昭大さんは、独立して専門店の開業することが夢でした。移住後、それまで市内では珍しかった窯を備えたキッチンカーで夢を実現しました。みみはふっくら、表面はカリッとー。マルゲリータが一番人気の商品です。

昭大さんは元々、都内での独立を考えていましたが、自治体などに移住や起業に関する支援金制度があることを知り、地方での挑戦も考えるように。一方、詩織さんは、昭大さんの長年の夢を応援しつつ、子育ては地元でしたいという希望がありました。

新型コロナ禍の自粛期間は、今後のライフスタイルを考え、実際に行動に移す転機になりました。移住先は青森市も検討しましたが、昭大さんが「自営業に向いている土地柄」と感じた八戸市に決めました。

娘の成長見守る喜び

移住前から、市が開設する「はちのへ創業・事業承継サポートセンター」に創業の相談をしたり、キッチンカーが出店できる場所を電話で各所に問い合わせたり…。引っ越しと創業の同時進行で事前の準備は大変でしたが、そのかいあって、移住の1カ月後には創業を果たしました。活用したのは、市の移住支援金と、21あおり産業総合支援センターのあおり移住起業支援事業費補助金です。

営業は週4日ほどで、昭大さんが腕を振るい、詩織さんが笑顔で接客します。売り上げは順調。昭大さんは時間に追われていた勤め人時代より、長女ニイナちゃんの成長を見守る時間が増えたことにも喜びを感じています。

「地方の多くは首都圏より収入が高くないのは事実。それでも、その人にとって柱になる（仕事や子育てといった）目的や楽しみが定まっているのなら、地方移住をお勧めしたいですね」と詩織さん。自然に近い、伸び伸びとした今の生活に充実感をにじませます。

起業を支援する体制

働く

〇はちのへ創業・事業承継サポートセンター（8サポ）

「起業・創業」「事業承継」の総合相談窓口です。事業の構想段階から、開業後のフォローまでワンストップでサポートしてくれます。

〇特定創業支援等事業を受けたことによる証明書の発行

創業支援等事業者が実施する「特定創業支援事業」による支援を受けた方へ証明書を発行しています。その証明書により、登録免許税の軽減措置等が受けられます。

実家近くで子育てしたい！

〈真也さん〉福島県いわき市出身。宇都宮大から東京の外資系人材紹介企業に就職。八戸市のユニバースに転職。〈彩英子さん〉青森県五戸町出身。仙台大を卒業した後、長野市へ。2012年結婚、真也さんの転勤で福島県郡山市を経て、15年に八戸市に移住。

満足度／日常生活の選択肢◎／住民同士の距離感○／移住者がなじみやすい○



希望とマッチした転職先

長野市で出会い、結婚した箱崎真也さん、彩英子さん。移住を決めたきっかけは第1子の誕生でした。子育てはどちらかの実家に近く、多くの大人に関わってもらえる環境でというのは、夫婦共通の価値観でした。

真也さんの職場は全国転勤がある上、勤務エリアを限定できる制度がなく、転職する必要がありました。互いの地元周辺で、これまでの人材業界のキャリアを生かせる職種を探していたところ、見つけたのがスーパーを展開する八戸市のユニバースの求人でした。

同社の人事担当として能力を発揮している真也さん。「子育て世代にとって移住の最重要事項は、自分に合う勤め先があること。八戸って意外と仕事があり、首都圏などよりも自分が活躍できる仕事に出会える人多いと思います」と実感を含めます。

彩英子さんは、夫の転勤先に随伴して働き続けられる「配偶者同行制度」がある会社に転職し、今も継続して働いています。

地域活動引っ張る存在に

彩英子さんの実家がある五戸町に近い八戸駅西地区に家建て、小学生になった長男俊篤君、長女文寧さんと4人で暮らしています。同地区は近年、区画整備が進んで世帯数が増加。住民主体の活動も活発で、箱崎さん夫婦はその中心的な存在です。始まりは新型コロナ禍で三密を避けて企画したラジオ体操でしたが、今では駅西口前の通りを歩行者天国にした集客イベントに拡大しています。

真也さんにとって移住前まで縁がなかった八戸ですが、「昔から人々の往来が盛んだった影響か、他から来た人を受け入れる土壌がありますね」と印象を話します。買い物や食事、習い事、病院など、日常生活で困らない適度な選択肢があることも、ちょうど良い住みやすさを感じるポイントだといいます。

「都会過ぎず、田舎過ぎず。以前は気付かなかった地元の良さを再発見しています」と彩英子さん。仕事に子育てに地域活動に、笑顔溢れる充実した毎日を過ごしています。

就職を支援するサイト

働く



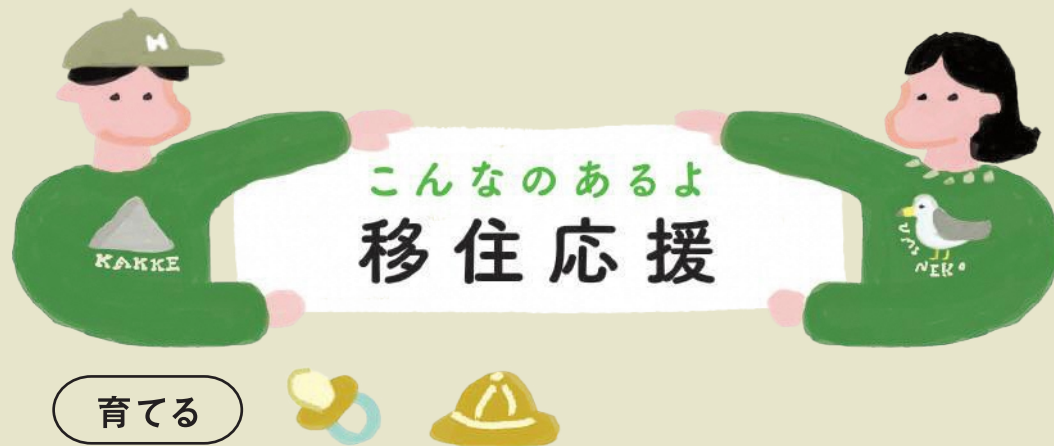
○八戸都市圏ジョブ市場

八戸都市圏（八戸市、三戸町、五戸町、田子町、南部町、階上町、新郷村、おいらせ町の8市町村）の求人・求職情報が検索できるウェブサイトです。



○八戸で働こう

八戸市企業誘致促進協議会が八戸に立地している魅力ある誘致企業等を紹介しているウェブサイトです。



育てる

子育てを支える体制

●こどもはっち

子どもと大人の交流の場。育児支援機能も備えた遊び場です。木のぬくもりを感じながら、笑顔あふれる楽しい時間を過ごせます。市外出身のお母さんや、転勤などで八戸に引っ越してきたお母さんを対象にしたイベント「転勤ママひろば」も開催しています。

●八戸市こども家庭センター（母子保健機能）

妊娠・出産・子育ての相談窓口。妊娠期から子育て期にわたる不安・悩みに対し、保健師・助産師・栄養士が相談に応じます。八戸のママたちを応援したいという意味を込めて、『はちまむ相談』として相談室を設けています。

●放課後児童クラブ

両親が共働き等で昼間家に誰もいない家庭の小学生のお子さんが、学校の授業終了後（放課後）から夕方まで過ごす場所です。小学1～6年生までが対象で、市内52か所に開設しています。

●地域子育て支援センター

小学校入学前のお子さんとその保護者の方であれば、どなたでも利用できる施設です。地域の保育園などに開設しています。絵本の読み聞かせや親子遊び、季節の行事などのほか、子育てに関する相談や情報の提供も行っています。また、保育園の園庭開放、図書の貸し出し、子育てサークルへの支援なども行っています。

●ファミリーサポートセンター

地域の中での子育て支援と、児童福祉の向上を目的に会員制の相互援助活動を行っている組織です。子育ての援助は、八戸都市圏（八戸市・三戸町・五戸町・田子町・南部町・階上町・新郷村・おいらせ町）内に在住または在勤の方で、生後56日以上から小学6年生までのお子さんが対象です。

●子育てサロン

孤立した子育て環境にならないように、地域の親子が気兼ねなく集まり、子育て相談や交流ができる場です。地域の公民館などで開催され、小学校入学前のお子さんとその保護者が利用できます。

●病児・病後児保育の実施

保護者が自宅での保育が困難な場合に対応するため、病院・保育所等において病気の児童を一時的に保育しています。

子育て支援制度

●保育料の軽減

認可保育所や認定こども園、認可外保育施設に入所している第3子以降の児童の保育料を軽減しています。

●子ども医療費助成【完全無償化】

健康保険に加入している高校生年代までのお子さんについて、保険診療を受けた際の自己負担分を助成し、無償化を実施しています。（なお、高額療養費、家族療養費附加給付金の給付を受けた場合は、その差額分を支給します）

●八戸市ブックスタート事業

赤ちゃんと保護者が絵本を通じて、ゆっくりと心触れ合うひとときを持てるよう応援する事業です。乳児股関節脱臼検診（生後90～120日に受診）の場を利用し、絵本の読み聞かせをした後、絵本1冊と図書館の利用案内、おすすめ絵本のリスト等を入れたブックスタートバックを配付しています。

教育支援制度

●マイブック推進事業

八戸市立小学校と八戸市内にある県立特別支援学校小学部に在籍する全ての児童に、市内書店で利用できる「マイブッククーポン（1人2,000円分）」を配布しています。自ら本を選び購入する体験を通して、読書に親しむ環境をつくることを目的とした事業です。

●学校給食費無償化

八戸市立小中学校の学校給食費の保護者負担分を無償化しています。

●就学援助制度

経済的な理由で小・中学校の就学費用の支払いが困難な家庭に対して、給食費や学用品費などの一部を援助しています。（私立小・中学校に在籍している場合は対象になりません）

●八戸市奨学金制度

経済的な理由により、高等学校以上の修学が困難な方に、無利子で奨学金を貸与または給付しています。※申請時点で、保護者が市内に引き続き2年以上住所を有していることが条件です。

●「八戸市未来の保育士応援奨学金」制度

指定保育士養成施設に在学する方のうち、卒業後に市内の保育所等（認可保育所または認定こども園）に保育士として勤務する意思のある方に対し、修学資金を貸与します。

●八戸市看護師等修学資金貸与制度

市内の助産師、看護師又は准看護師養成施設に在学する方で、卒業後、市内の医療施設等で業務に従事する意思のある方に修学資金を貸与します。

子育て支援サイト

●子育てアプリ「はちも」

妊娠から出産、育児までをフルサポートする子育て支援アプリ。予防接種のスケジュール管理、母子健康手帳の記録、八戸市の子育て情報や出産・育児に関するアドバイスなどを提供しています。

●子育て情報配信「はちすく通信LINE」

子育てに関する行政情報やイベント情報など子育てに役立つ情報を定期的に配信します。

働く



就職支援制度、体制

●八戸市移住支援金

東京圏から八戸市内に移住し、市内事業所に新規就業した方などに移住支援金を支給します。

●八戸市地方就職支援金

東京都内に本部がある大学・大学院の学生が、市内企業の就職活動に参加するために要した交通費や移住に要した移転費(引越費用)を地方就職支援金として支給しています。

●八戸市医療・福祉職子育て世帯移住支援金

青森県外から八戸市内に移住した子育て世帯で、市内の医療・福祉施設などで資格に基づく業務に就業した場合や、医療・福祉職の資格を取得するために県内の養成機関に就学した場合に医療・福祉職子育て世帯移住支援金を支給しています。

●ほんのり温ったか八戸移住計画支援事業

U/Iターン就職の促進と各産業分野における人材不足の解消を図るため、U/Iターン就職希望者に対して移住のための引っ越し費用、住宅費(家賃)、学用品等の購入費を支援しています。(事前登録が必要)

●八戸市無料職業紹介所

求職者への求人情報の提供、職業紹介、職業相談や求人希望する企業の求人登録、紹介などを無料で行っています。

●はちのへ創業・事業承継サポートセンター(8サポ)

「起業・創業」「事業承継」の総合相談窓口です。事業の構想段階から、開業後のフォローまでワンストップでサポートしてくれます。

●「青森県・八戸市」連携融資制度

「青森県『青森新時代』への架け橋資金特別保証融資制度」を活用して開業する創業者は、青森県と八戸市の連携によって「信用保証料」の全額補助が受けられます。

●八戸市創業融資利子補給事業

日本政策金融公庫が実施する創業融資を活用して開業する創業者へ利子補給を実施しています。

●特定創業支援等事業を受けたことによる証明書の発行

創業支援等事業者が実施する「特定創業支援事業」による支援を受けた方へ証明書を発行しています。証明書により、登録免許税の軽減措置等が受けられます。

起業・創業支援体制

新規就農支援

●新規就農者育成総合対策 経営開始資金

次世代を担う農業者になることを目標とする方に対し、就農直後の経営確立を支援する資金を最長3年間交付します。

●新規就農者育成総合対策 経営発展支援事業

就農後の経営発展のために、認定新規就農者が機械・施設等を導入する場合、国と県からの支援があります。

就職、企業情報サイト



●八戸都市圏ジョブ市場

八戸都市圏(八戸市、三戸町、五戸町、田子町、南部町、階上町、新郷村、おいらせ町の8市町村)の求人・求職情報が検索できるウェブサイトです。



●八戸で働こう

八戸市企業誘致促進協議会が八戸に立地している魅力ある誘致企業等を紹介しているウェブサイトです。



●八戸企業ガイドブック

八戸地区雇用対策協議会が八戸地域に就職を希望する青森県内外の学生を対象に、企業情報を提供しているウェブサイトです。

住む



住宅支援制度

●若者定住促進賃貸住宅

若者の定住促進を目的として市営住宅を提供します。(住所:八戸市南郷市野沢山陣屋)



●はちのへ空き家ずかん

空き家の利活用希望者等に対し、ワンストップで対応できるウェブサイトです。

移住相談窓口



八戸市 総合政策部広報統計課 シティプロモーション推進室

〒031-8686 青森県八戸市内丸一丁目1番1号

電話:0178-43-2319

E-mail:iju@city.hachinohe.aomori.jp





@HACHINOHE STA.



八戸市